



え
と
文

偶 感 小野 功夫

現代の混沌を象徴したような街である東京から、今なお活動している数少ない古都の片隅に仕事の場を求めて、そしてやや時が過ぎた。

それまで何気なく見てきた仏像や、曼陀羅図などが、恐ろしい、不気味なものを見るように感じてきた。はたして、こんなものが、自分と血のつながりを持った祖先の感覚などと信じてよいものなのかと思うことすらある。

虚空を完全に分割しつくしたはずの千手観音。なものよりも大きかったはずの大仏。

昔の人の造形とは信仰の強弱によって定められたのであろうか。

我々は今日の混沌を救うべく、やはりもっと手の多い仏や、より大きい仏を安置した曼陀羅図を作らねばならぬのだらうか。

それとも、やはり末だに一輪の花でこ
と足るのであろうか。(中学講師、美術)